２年越しの決闘

モーディス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
２年越しの決闘

【Ｎコード】
Ｎ６０４６Ｐ

【作者名】
モーディス

【あらすじ】
２年と少々……ほぼ、３年の月日。
たった１つの勝利と敗北が、彼と彼女を繋ぎ止めた。
ルールの上で敗者となった少年。
ルールの上で勝者になり得た少女。
敗北を認めぬ少年と、勝利を疑う少女。
真に決着を付けるために、今、２年前の続きが始まる。

プロローグ『第2ラウンド』

彼を見た者は、皆、似たような第一印象を抱く。

曰く、ゴリラ。
曰く、超人ハルク。
曰く、怪物シュレック。

さして大きくもない背丈に、筋肉の粘土を叩きつけたかのような無骨な体。
不気味に盛り上がった肩、異常な太さの腕、樽のような胴体。
太ももは丸太のように膨れ上がり、胸もグッと競り出ている。
そんな体と頭部を繋げるのも、これまた太い首であった。

その首の上に鎮座する顔は、決して見目良いものでもない。
耳は潰れ、鼻も潰れ、両の瞼の上には縫合の痕がある。
幾度も顔を打たれ、幾度も寝技で戦い抜いたからこその顔だ。
とてもではないが、彼を見て高校生と思う者はいないだろう。
その傷のせいで、８つは彼の年齢を見誤るに違いない。

川神学園３年Ｓクラス、藤田（ふじた）　猛（たける）。
１年の折りに武蔵小杉に後れを取った、有象無象の１人である。
その有象無象が柔道着を纏い、決闘の場に立ち尽くしていた。

向かい合うのは、彼を２年以上前に下した武蔵小杉。
弓道部に所属していながら、彼女は空手着を身に着けている。
生来の強気を瞳に秘め、変わり果てた男を静かに見据えた。

２年と少し前。
武蔵小杉にとって１２人目、藤田猛にとっては初めての決闘のことだ。

開始から４２秒で、彼は腕を十字に極められた。
もちろん、そのまま小杉が力を加えれば、容易に折ることができた。
できたのだが、極まった時点で彼女の勝ちが宣告された。

彼は、降参もしなければ、悲鳴をあげもしなかった。
ルールの上では敗北したが、負けたつもりはない。
そう言い張ったが、誰が耳を貸すわけでもない。
ただ彼と、彼を下したことになっている武蔵小杉だけが理解していた。

そして今。
あのときと同じように、２人は対峙していた。

衆人環視の中、グラウンドの真ん中で。
一方が見下ろし、一方が見上げ。
一方が鼻を鳴らし、一方が腕を組み。
あのときと全く同じように、ただ睨みあっていた。

無論、同じでない物の方が多かった。
身長、体重、服装、気合、ギャラリーの数。
そして何より、2人の間に残された時間が違う。
互いに、これが最後の決闘になるのだから。

「あなたが、柔道の藤田猛ね？」

武蔵小杉は、分かり切ったことを尋ねる。
目の前の男の名など、何度も耳にしてきたのだ。
しかし彼女は、あの時と同じように尋ねた。

「お前か。俺にケンカ売ろうってバカは」

藤田猛は、的外れな返しをする。
今の彼は、武蔵小杉に挑戦する人間なのだから。
だが彼は、あの時と同じように不敵に笑った。

どちらともなく、小さく吹き出す。
そして、その小さな笑いは、すぐに口の中で消えた。

「さぁ、第2ラウンドだ」

藤田猛は、呟いた。

「さぁ、第2ラウンドよ」

武蔵小杉は、囁いた。

2年越しの決闘が、再び始まる。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6046p/

２年越しの決闘

2010年12月30日20時24分発行